

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おはなのいえ竹松本町		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和7年 4月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和7年 4月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・事業所の活動プログラムが固定化されないように工夫されている。 ・個別支援計画書に沿った支援が行われている。	保護者様のニーズ、また児童ひとりひとりの思いも聞き取りや読み取りで、その時に合う目標を設定しています。コンセプトでもある「家事スキル」は、保護者の方にもご理解いただき個別支援計画書にも取り入れさせていただいています。	家事スキル【掃除・洗濯・調理】・将来「1人暮らしをしたい。」「グループホームでの生活を考えている」等、どの選択をしても不可欠になるスキルを個々に合わせてお伝えしています。認知力向上のためのトレーニング【コグトレ】社会的スキルの向上【SST(ソーシャルスキルトレーニング)】の机上課題やロールプレイを通じて、この3本柱をおはなのいえの支援としています。
2	・子どもが安心感を持って通所している。 ・子どもが通所を楽しみにしている。 ・事業所の支援に満足している。	一軒家をコンセプトにより家庭に近い環境の中で支援を行います。いつでも帰って来られる場所、抛り所を目指し施設感のない雰囲気を作っています。また、軽度のお子様には彼らのプライドや思いを守る意味でも社用車は、世間の車と同じもの。職員の服装はお母さんやお父さんがしている格好で、いち人的環境としても寄り添っています。	卒業後にも立ち寄れる場所としてあり続けたいと思っています。「この先生に会いたい」「竹松のみんなに会いたい」と思ってもらえるように、信頼関係がありながらの支援になるようにこれからも職員一同、共通認識を持って子どもたちを迎え入れたいと思います。
3	・子どもの特性を理解し、専門性のある支援が受けられる。	セラピストの専門性を持つ職員は竹松本町にはいません。しかし事業所内研修や外部研修の伝達などを行い、日々の支援に変更や改善を繰り返します。よりお子様にそう支援ができるよう、情報やこれまで得た経験を活かせる環境作りから努めています。	これからも、職員一同様々な研修や、情報の収集などを行いながらお子さま、また保護者の方々にとってもご満足いただけるよう精進してまいります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	生活空間が子ども達に分かりやすく、構造化された環境になっているか。また、特性に応じバリアフリー化や情報伝達等への配慮がなされているか。	保護者様からの評価において“どちらともいえない”に票がありましたので課題として検討しましたところ、事業所側としては子どもたちと一緒に過ごす中で課題に感じているところは広い空間での部屋の使い方が挙がりました。	児童に分かりやすいリマインダー（視覚指示）の掲示や構造化の考慮し部屋の模様替え等を行う場合は子どもたちと一緒に実施します。
2	マニュアルや避難訓練の保護者周知についてや、安全面についての支援が行われているのか。	マニュアルについては、虐待、身体拘束適正化、防犯、感染症、事故防止（ヒヤリハット含む）においてすべて策定しておりその項目についての事業所内研修及びBCPの外部研修などを経て改善、工夫をしております。また、SNSについての周知を主にさせていただいております。	SNSの閲覧呼びかけや、送迎時に実施報告をさせていただくことが今の段階の最善の方法です。マニュアルについての説明は契約時や面談時に行っていますが、詳細説明についてご希望があればお時間をとって頂き来所いただいたときに文章読み上げ丁寧にご説明をさせていただきます。
3	児童クラブ、地域交流の機会があるか。	職員の評価も“いいえ”が多いです。実際の課題解決に関しましては右記欄に示します。	積極的な関与はございません。おはなのいえに通うお子さまのプライドや学望期、青年期の心の葛藤に向き合うための配慮だと感じています。ゼロの状況はありませんが、控えたい時期には控えます。積極的な活動が子どもたちにとってメリットになる時期には、様々な活動参加を行います。